

【総務常任委員会所管分】

番号	所管課	要件	意見・質問・要望	調査結果
1	総務課	AIについて	AIに関する法律が出来てAIを利用するのであれば大丈夫と思うが、その点が疑問です。	本市は、AIが進んでいるまちだと感じている。これからも推進していくと考えられるが、AIについて市民に理解を求め、検証と改善を行いながら住みやすいまちが実感できるような取り組みとなるよう、市行政に働きかけていく。
2	総務課	AIについて	AIは、高齢者が取り残されていくような感じがする。やはり、指導する方がちゃんと指導してほしい。	AIは便利さがある一方で使いこなせない方にとっては不安となり得る。AIの推進と並行して市民の理解を得られる取り組みができるよう市行政に働きかけていく。
3	管財課	公共施設の解体工事について	詫間庁舎と山本保育所の解体工事はどこの事業者がするのか。	詫間庁舎の解体工事は神託組が落札している。
4	危機管理課	消防団について	市議会だよりの視察報告のページに消防団があります。男性隊員は消火活動や...、女性は火災予防広報...と記載されています。これは役割の固定観念で不適切ではないですか？男性が広報や非常食をつくったり、女性が消火活動をして問題はない。不適切な市議会だよりのことだと思う。	三豊市の消防団員数1,054名のうち14名が女性消防団員であり、火災予防広報活動や防災知識と災害時救急並びに救護活動の普及及び啓発活動をしている。しかし、現在危惧されている南海トラフ巨大地震の発生時には、男性団員が非常食を作るなどの活動に携わり、女性団員が消火活動に参加することも十分考えられることから、役割の固定観念はなく、女性消防団員ならではの活躍が今後も多いに期待される。
5	地域戦略課	まちづくりについて	財田町が冷え切っているという感じを持った。もう少し財田が栄えるように考えてほしい。	地域の担い手や関係団体との協働により、市全体として地域が賑わっていくよう、市行政に働きかけていく。
6	地域戦略課	まちづくりについて	地域間の差別化がある。医療にしても、人口の減少も、その対策が見えてこない。	地域間のさまざまな格差解消のため、だれもが住みやすいまちになるよう市行政に働きかけていく。
7	地域戦略課	路線バスについて	路線を広げてほしいとかいうのではなく、路線を減らしてほしい。学生が使われるようなところは増便してもらっていいと思うが、全然使われてないようなところとか、市外、普通寺のこどもとおとなの医療センターまで行ったりしている。ちょっと手広げすぎじゃないかと思う。	市では、コミュニティバスを始め、市全体として最適で持続可能な交通施策を研究・模索している。市民にとって利便性が良く、広く利用できるよう施策となるよう市行政に働きかけていく。
8	地域戦略課	路線バスについて	路線バスの無駄が多いと感じます。選択と集中を意識した改革をお願いします。	本市のコミュニティバスは、全12路線で構成し、高齢者の通院や買物、高校生等の通学を中心に、コロナ禍においても、年間20万人以上の利用があり、市民の貴重な移動手段として広く利用されている。運行ルートは、地域のニーズや利用状況を踏まえ、地域住民、道路管理者、警察等の関係者と十分に協議した上で、利便性や安全性等を総合的に判断し、適宜見直しを行っている。路線定期型で運行するコミュニティバスの性質上、全ての要望に応えるのは難しく、路線変更だけでは避けることができないものもあり、多様化する地域社会の移動ニーズに対し、既存の公共交通手段だけでは対応が難しくなっていることが背景にある。多くの税金を使用している事業であるため、これからもより多くの市民、観光客に利用してもらえる取り組みとなるよう、市行政に働きかける。

番号	所管課	要件	意見・質問・要望	調査結果
9	地域戦略課	乗合タクシーについて	乗合タクシーの計画について。	現在、民間主導による定額制乗合タクシーと、市による乗合タクシーの実証運行を実施している。これらの実証は、公共交通空白地域において、自宅と拠点施設等を結び、ラストワンマイルに対応した市民の移動支援と外出機会の創出を図ることを目的としている。今後は、実証結果を十分に検証し、サービス内容の改善、さらにはほかの地域への横展開等の可能性について、市内タクシー事業者をはじめとした交通関連業界と連携した取り組みとなるよう監視していく。
10	地域戦略課	定住促進について	若者の定住化について。(少子化対策で子供が増えたとしても進学や就職で県外へ出て行ってしまふ現実。)	現在も続く都市部への人口移動(人口流出)は、地方自治体にとって大きな課題である。本市では、本年3月31日に40歳未満の住宅取得時の補助が終了したが、新たにZEH補助事業といった環境に則したエコ住宅補助金が設置され、本市での住宅取得の側面から定住を促進している。「都会に出て勉強したい、働きたい」と夢に向かって進む若者の支援とともに、将来、生まれ育った三豊で働きたい、ずっと三豊で住んでいたいと思ってもらえる魅力あるまちづくりの取り組みは、帰ってくる若者を増やし、転出する若者を減らすことにつながるものと考えられる。三豊市をそう思ってもらえる「まち」になるよう議会としても協力していきたいと考えている。
11	財政経営課	市の財政について	何かお願いすると「予算が無い」と言われます。なぜ予算が無いのか、素人にもわかるように広報できないか。	市の財政状況について、市のホームページや広報誌などで分かりやすい内容となるよう市行政に申し伝える。
12	産業政策課	企業誘致について	詫間町のゴルフ場の跡はどうなるのか、情報があるのか。	民間企業が購入しているため、十分な情報はない。地域の雇用や賑わいの創出につながるような事業実施となり、将来のまちづくりへの影響がないよう、議会として注視していく。
13	産業政策課	ふるさと納税について	ふるさと納税について。三木町は外注にしないで自前でやっていると聞きました。(間違えていたらすみません。)外注化すると実入りが少なくなるのは当然、納税者からの意見も伝わり辛くなると思うがいかがなものでしょうか。全国的に見ても自前と外注が有ると思います。何でもアウトソーシングにするのも業務内容を考慮しなければと思います。	ふるさと納税は、全国から寄せられる「ふるさと三豊応援寄付事業」と「企業版ふるさと納税」がある。応援寄付募集では、業務の一部を外部委託することで、年間約30,000件を超える膨大な事務処理の適切な処理と、専門的なデジタル技術活用による返礼品の魅力向上が図れている。業務のアウトソーシングに際しては、寄付額の増加につながるよう、しっかりと費用対効果を見極めるなど、適正な事業運用について監視していく。
14	産業政策課	観光振興について	・目玉がない市 ・テーマパーク的な物 人が集まる所に力を入れるべき	市内の観光資源である父母ヶ浜、紫雲出山、粟島などの豊かな自然が注目を集めてきていることから、これらを生かした関係人口の増加、誘致、移住定住への取り組みなどについて市行政に働きかけていく。
15			最後に質問ではないですが意見です。三豊市に住みたい若者はほとんどいません。なぜなら、三豊市は人間関係が閉鎖的過ぎるし、高齢者による女性差別がひどいからです。私自身、三豊市は戻りたいけど戻りたくないです。なぜなら先述した通り三豊市の教育には不信感がありますし、市議会だよりに平然と性別で役割を固定するからです。	貴重なご意見であり、執行部と情報共有して、よりよいまちにしていく取り組みにつなげていきたい。